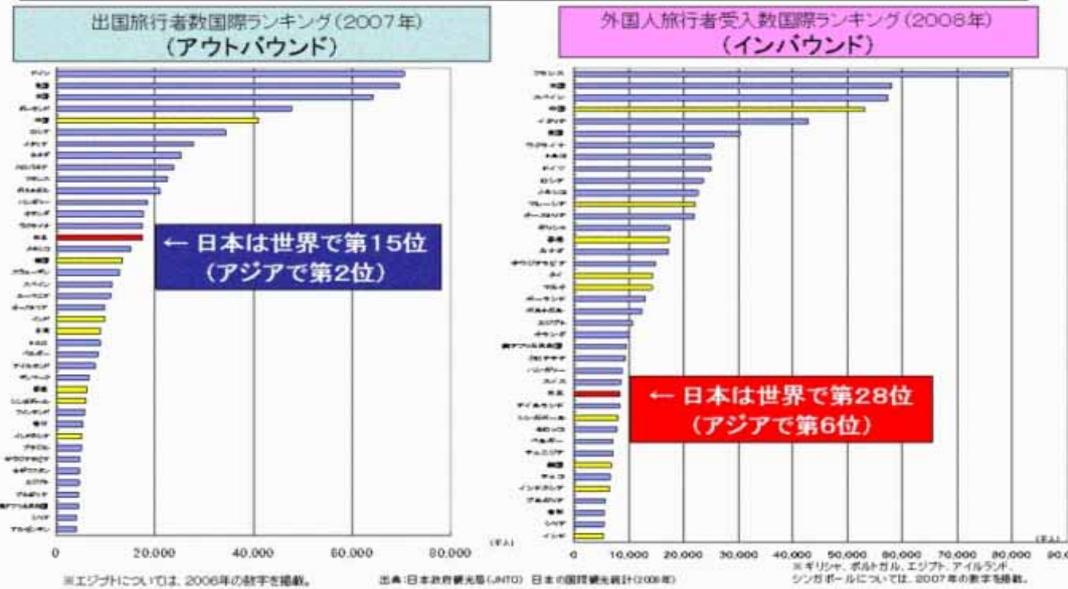


【統計資料・グラフ】

主要国における出入国旅行者数国際ランキング

< グラフ 1 >

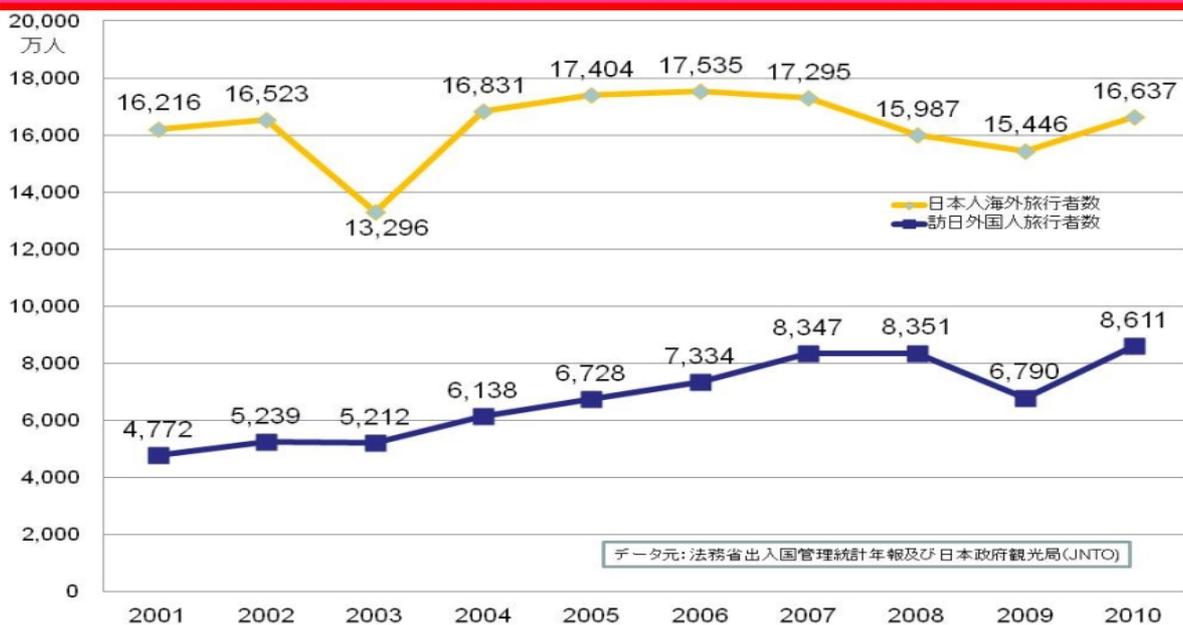
我が国は出国旅行者数(アウトバウンド)に比べて入国旅行者数(インバウンド)が少ない



出典: 国土交通省観光庁 HP(2010.03.02)より転写

< グラフ 2 >

訪日外国人旅行者数及び日本人海外旅行者数の推移

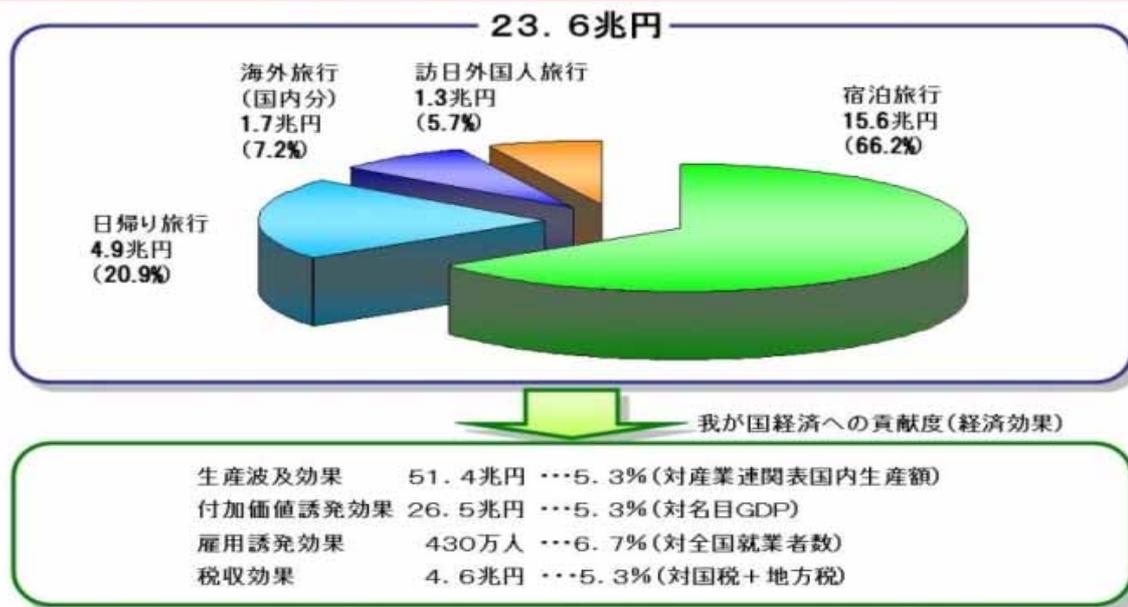


出典: 国土交通省観光庁 HP(2010.03.29)HP より転写

* こうした統計をみてもまだまだ訪日外国人は海外に旅行する日本人に比べて少ないことがわかる。

国内における旅行消費額(平成20年度)

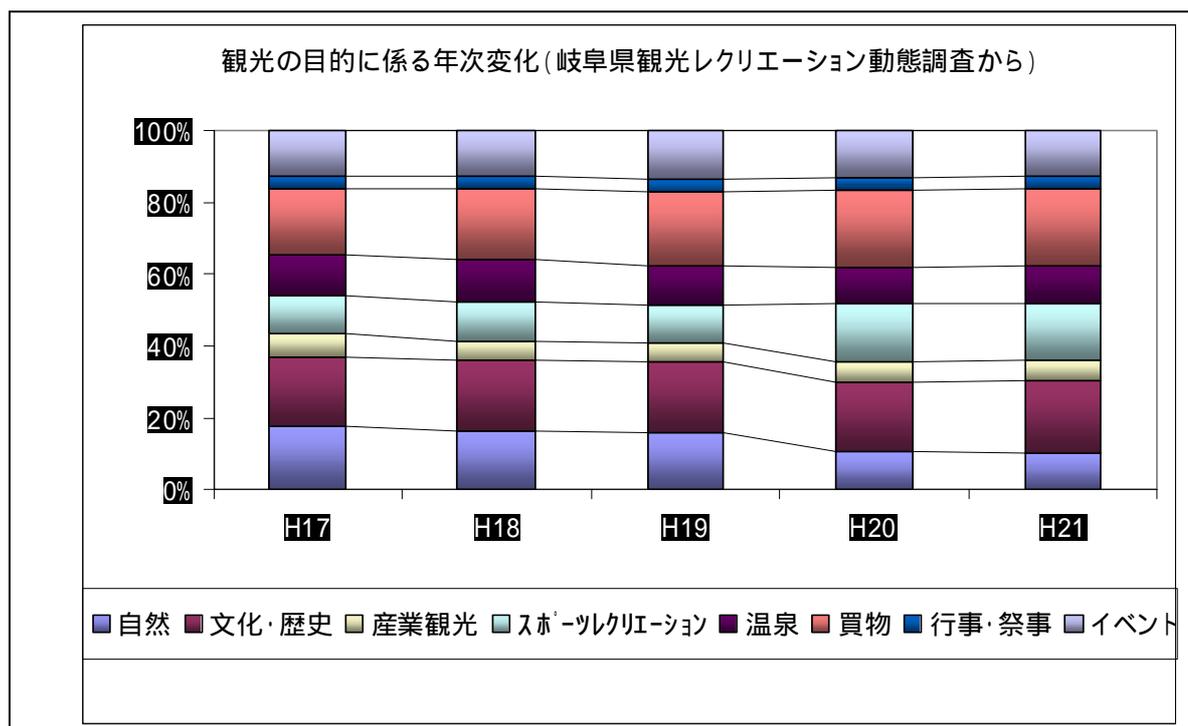
<グラフ3>



観光庁「平成20年度旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」による。

出典：国土交通省観光庁 HP「平成20年度旅行・観光産業の経済波及効果に関する調査研究」より転写・・・観光産業における経済波及効果は決して無視できるものではない。

<グラフ3>



* 次第に観光目的が「能動的」なものになっていくのがわかる。

宿泊者「お迎え」指数

順位	指数 (%)	延べ宿泊者数 (万人泊)	順位	2010年 国調人口	順位	指数 (%)	延べ宿泊者数 (万人泊)	順位	2010年 国調人口		
-	全国	229	29,295	-	12,806	35	岐阜県	240	499	26	208
1	沖縄県	959	1,335	8	139	38	大阪府	233	2,068	3	886
2	山梨県	681	588	22	86	39	福岡県	232	1,175	10	507
3	長野県	675	1,453	7	215	40	岡山県	226	440	29	194
4	石川県	520	608	20	117	41	奈良県	212	296	40	140
5	静岡県	482	1,817	5	377	42	徳島県	211	166	47	79
6	北海道	482	2,655	2	551	43	兵庫県	191	1,068	12	559
7	鳥取県	453	267	43	59	44	神奈川県	173	1,565	6	905
8	栃木県	446	896	13	201	45	愛知県	167	1,234	9	741
9	大分県	445	532	25	120	46	茨城県	139	414	30	297
10	福島県	431	875	16	203	47	埼玉県	48	344	36	719

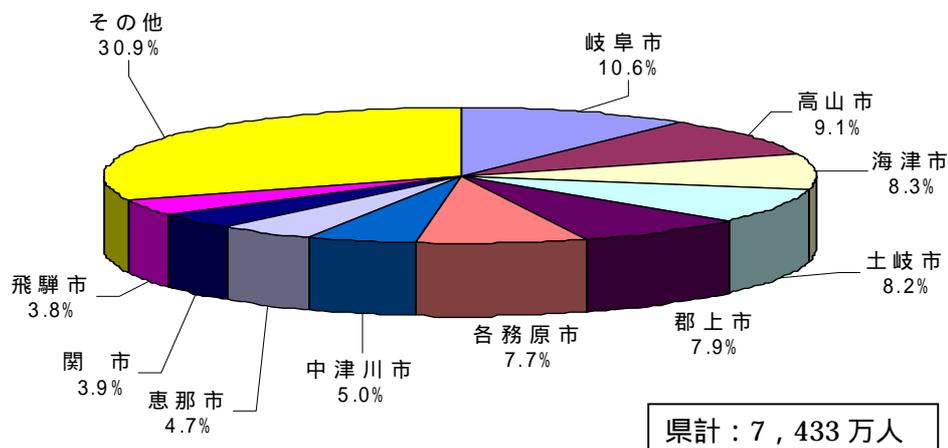
<表1>

出典：国土交通省観光庁「宿泊観光統計調査(2010年の月別累計)」より作成

*岐阜県は「まだまだ」お迎えできる余地がある。

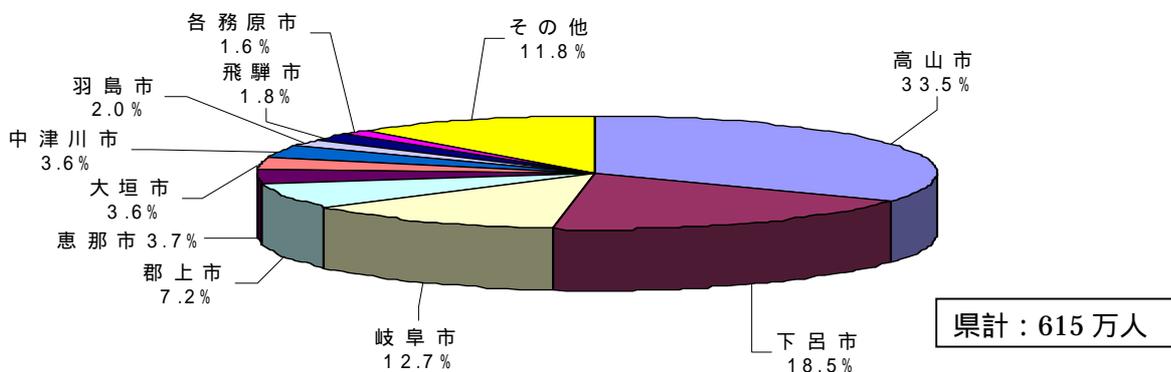
《岐阜県の主要市町村別観光客入込数(延べ人数)の割合》

<グラフ5>



《岐阜県の主要市町村別宿泊者数(延べ人数)の割合》

<グラフ6>



* グラフ5, 6とも岐阜県観光・ブランド振興課「平成21年岐阜県観光レクリエーション動態調査」より作成

県内の観光消費額と総生産の対比表

(単位: 億円、%)

	観光消費額 (A)	市町村内総生産 (B)	A/B
岐阜圏域	461	29,073	1.6%
西濃圏域	344	13,131	2.6%
中濃圏域	556	13,771	4.0%
東濃圏域	599	10,748	5.6%
飛騨圏域	863	5,933	14.5%
県計	2,823	72,656	3.9%

<表 2 - 1 >

(単位: 億円、%)

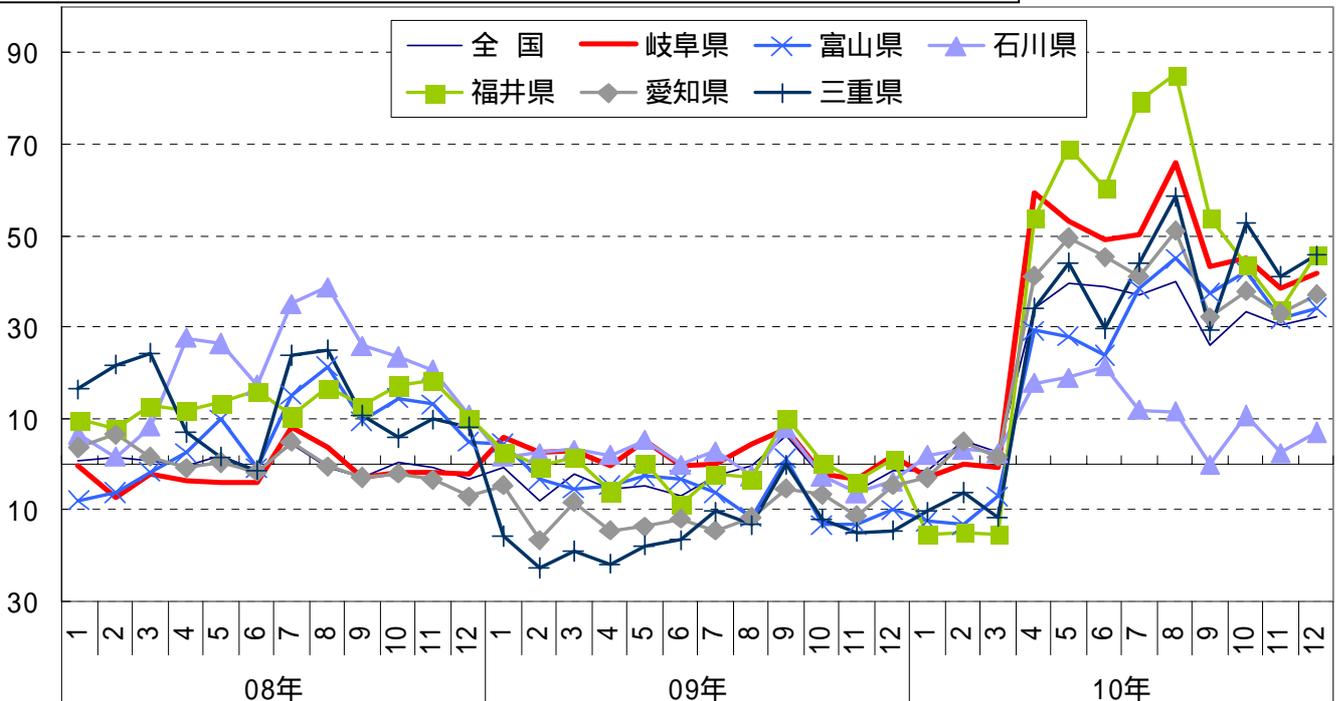
	観光消費額 (A)	市町村内総生産 (B)	A/B
1 白川村	92	123	75.1%
2 下呂市	237	1,346	17.6%
3 郡上市	235	1,532	15.3%
4 土岐市	218	1,573	13.9%
5 高山市	487	3,491	14.0%
6 海津市	133	1,037	12.8%
7 東白川村	5	60	8.3%
8 恵那市	144	1,906	7.6%
9 揖斐川町	62	818	7.6%
10 関ヶ原町	21	286	7.3%
11 白川町	15	234	6.4%
12 七宗町	7	137	5.1%
13 美濃市	46	836	5.5%
14 飛騨市	48	973	4.9%
15 中津川市	151	3,105	4.9%

<表 2 - 2 >

* 観光は中山間地域にとっては地域を支える主要産業。
表 2 - 2 では宿泊観光が主体ではない郡上市が宿泊観光を主体とする下呂市に肉薄していることがわかる。非宿泊型観光にも大きな可能性がある。

* 2 表は、岐阜県観光・ブランド振興課「平成 21 年観光レクリエーション動態調査」、同県統計課「平成 20 年市町村民経済計算」より作成

延べ宿泊者数の前年比増減の推移 (東海北陸自動車道全通時とその後の状況)

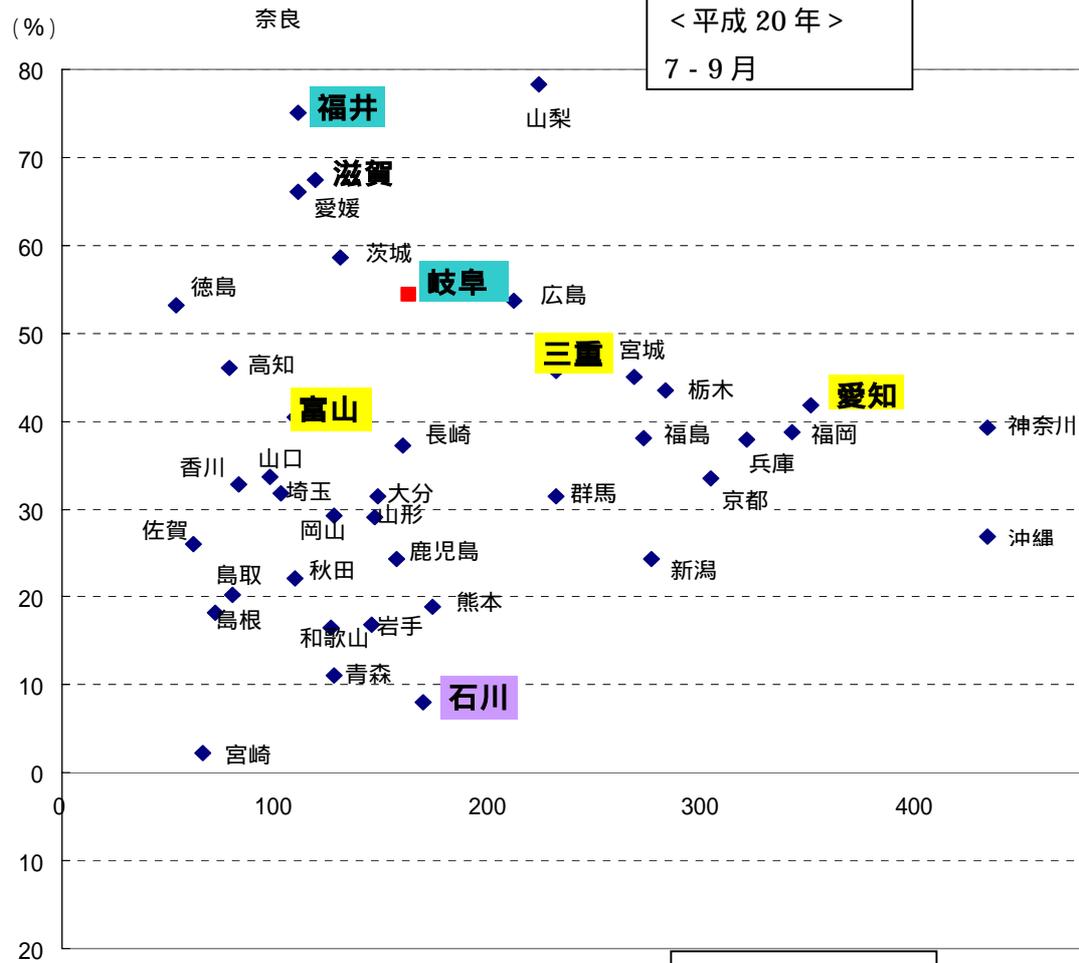
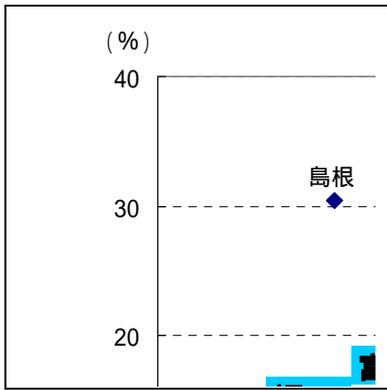


<グラフ 7 >

出典：国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」* 09 年は年報、10 年は四半期ごとのデータによる。

* 08 年が全通時。09 年は新型インフルエンザの影響で減少したが、10 年には福井県は相変わらず好調で、岐阜県や三重県も効果は継続模様だが、好調だった石川県が下降傾向を示している。

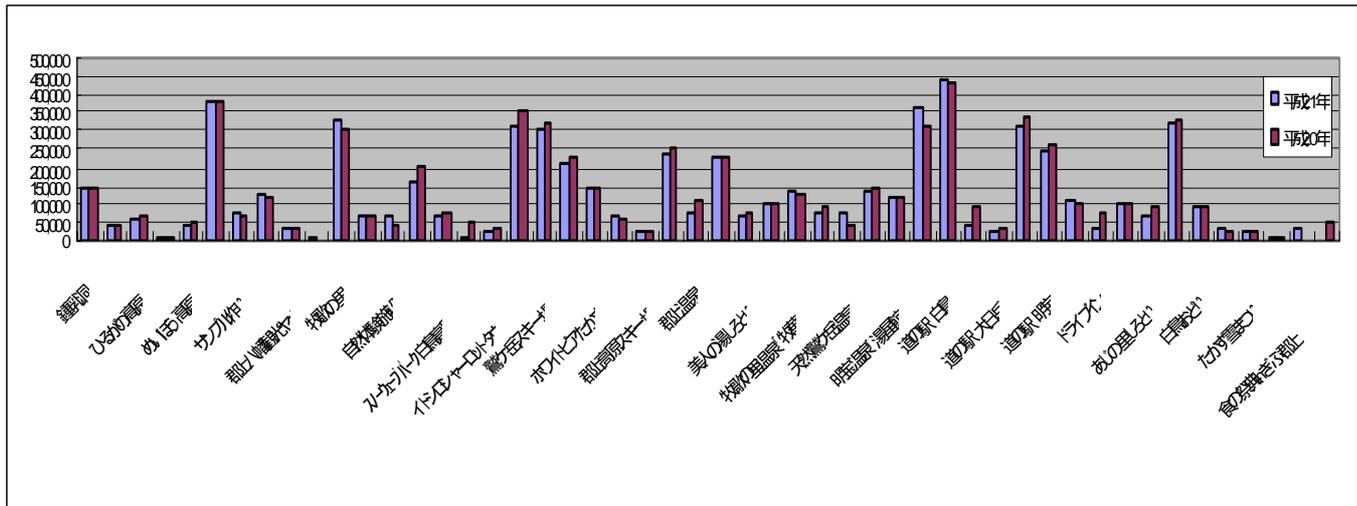
延べ宿泊者数と前年比増減



県内観光地の観光客入込数等

(1) 郡上市 (平成 21年 ; 年間 620万人)

<平成 22年>
7 - 9月

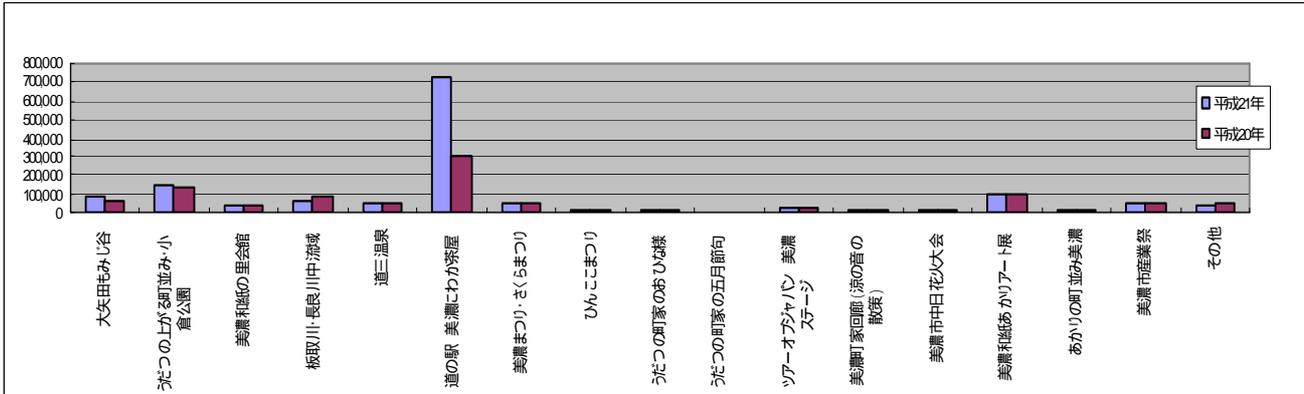


出典：岐阜県観光・ブランド振興課「平成 21年観光客動向調査」より作成
* 郡上市には数多くの観光スポットが優れた展開である。

出典：グラフ 8, 9とも国土交通省観光庁「宿泊観光統計調査」より作成
を比べると好調を維持する福井県と下降した石川県の差がはっきりしての影響はせいぜい 1 ~ 2年である。

(2) 美濃市 (平成 21 年 : 年間 149 万人)

< グラフ 11 >

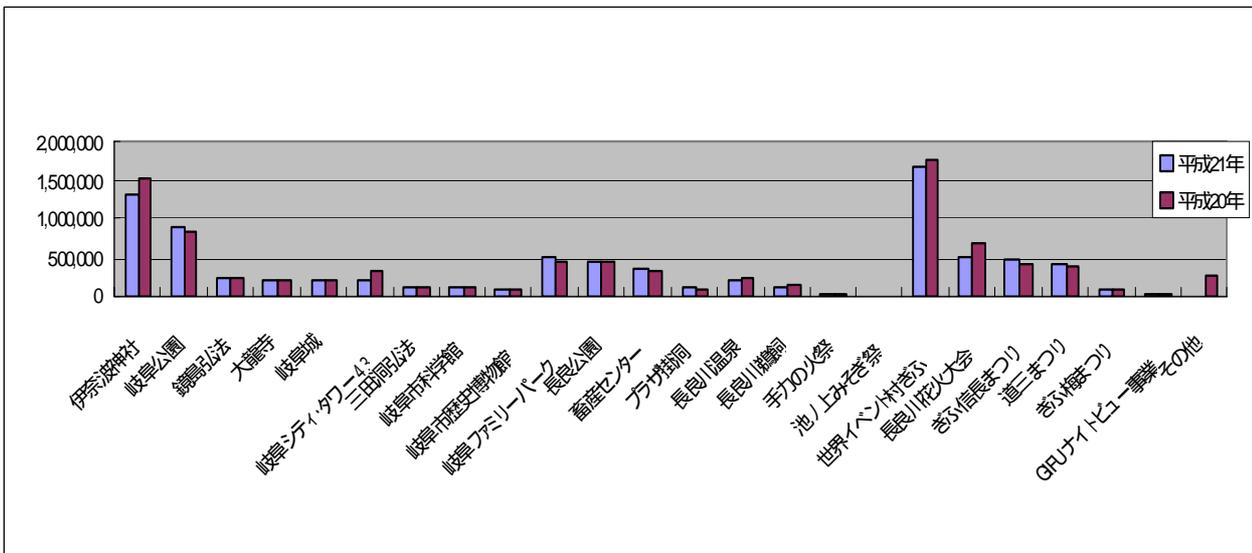


出典：岐阜県観光・ブランド振興課「平成 21 年観光レクリエーション動態調査」より作成

* 美濃市は「道の駅」での集客力は大きいですが、他のスポットは来客数は少ないものの 10 万人単位で集客できるスポットを複数有している。

(3) 岐阜市 (平成 21 年 ; 年間 832 万人)

< グラフ 12 >

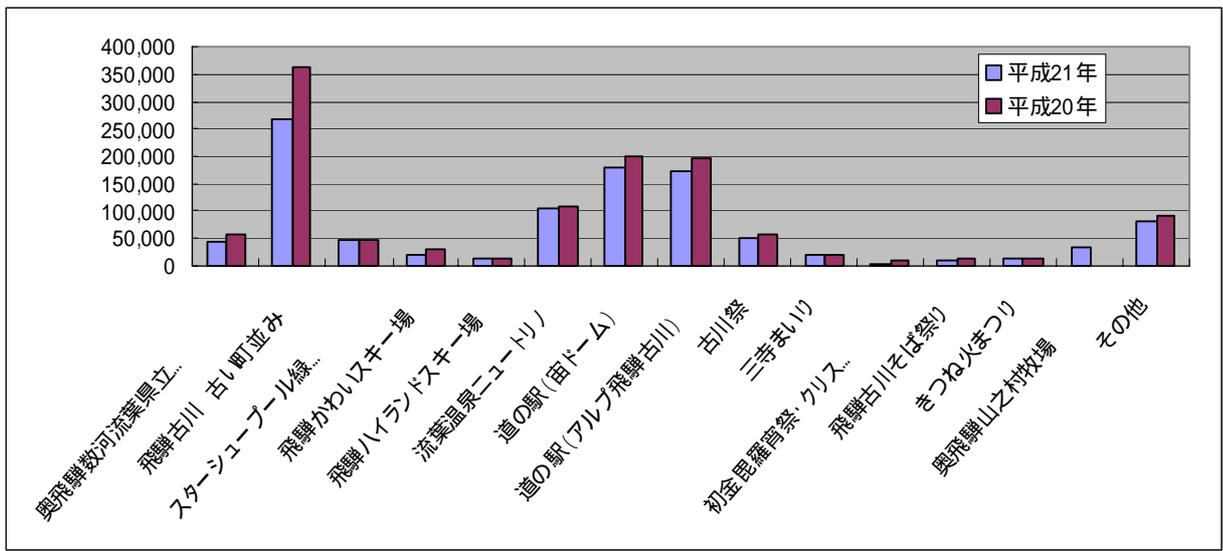


出典：岐阜県観光・ブランド振興課「平成 21 年観光レクリエーション動態調査」より作成

* この調査では「川原町」のスポットはカウント地点には入っていないが、周辺の岐阜公園、歴史博物館、長良川温泉などには観光客が集まっている。

(4) 飛騨市 (平成 21 年 ; 年間 105 万人)

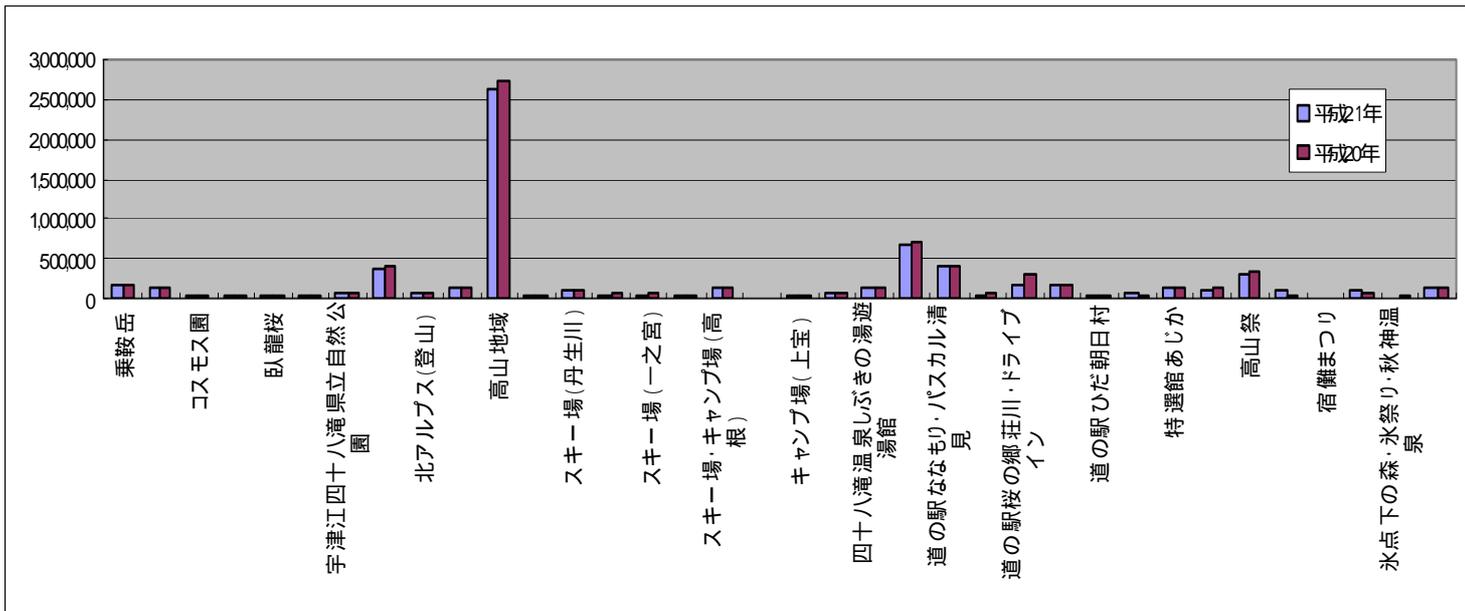
< グラフ 13 >



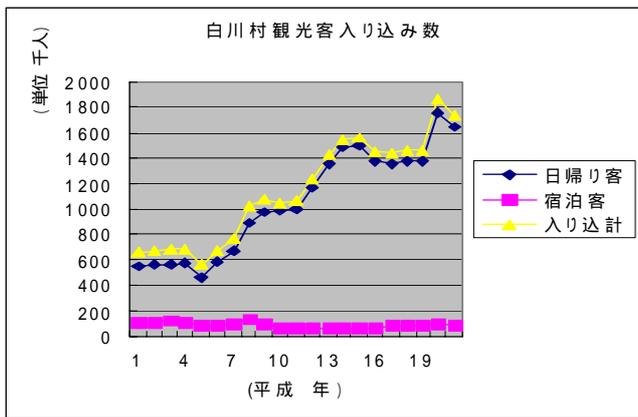
出典：岐阜県観光・ブランド振興課「平成 21 年観光レクリエーション動態調査」より作成
 *今のところは「飛騨古川 古い町並み」の集客力が大きいですが、他のスポットも 10～20 万人単位で集客できる力を持ち、拮抗してきている。

(5) 高山市 (平成 21 年 ; 年間 714 万人)

< グラフ 14 >



出典：岐阜県観光・ブランド振興課「平成 21 年観光レクリエーション動態調査」より作成
 *「高山地域(旧高山市内)」はやはり圧倒的な力を持つ。他のスポットも数十万集客できるところはあるが、第 1 位の高山地域に比べると 1/5～1/10 ぐらいである。



< グラフ 17 >

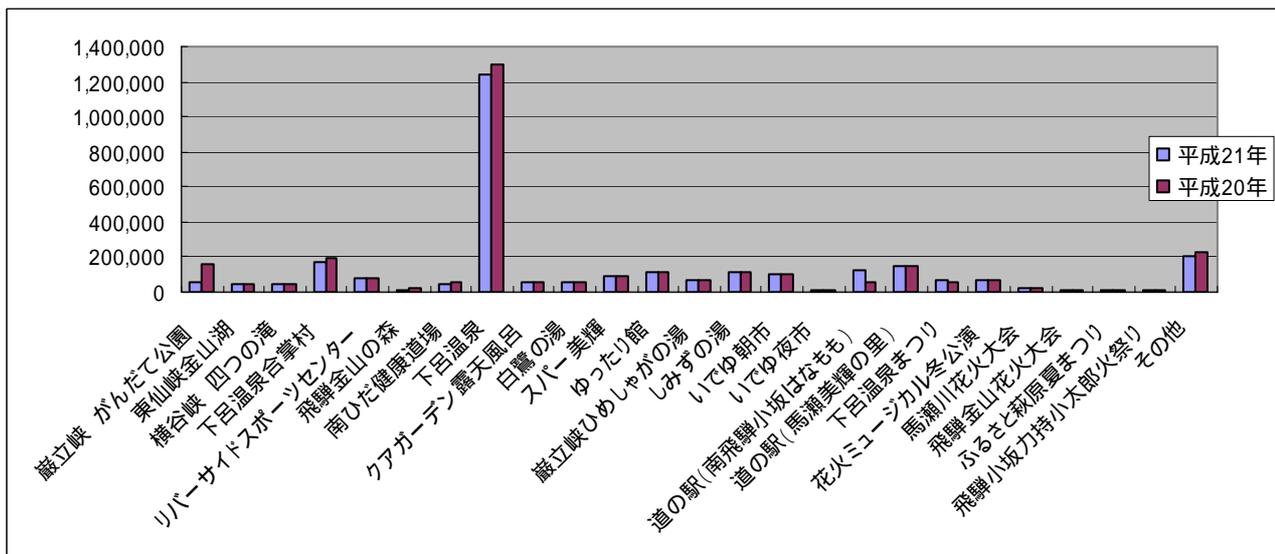
< グラフ 18 >

出典：グラフ 16、17 は白川村観光統計から作成

- * 「合掌造り集落」がやはり圧倒的な力を持つ。他のスポットの 4 倍以上である。
- * グラフ 16 では、「日帰り客」が圧倒的に多いことがわかる。
- * グラフ 17 では繁忙期と閑散期にかなりの差があることがわかる。こうしたばらつきを少しでもなくす仕掛けが必要である。

(7) 下呂市 (平成 21 年 ; 年間 295 万人)

< グラフ 19 >



出典：岐阜県観光・ブランド振興課「平成 21 年観光レクリエーション動態調査」より作成

- * 「下呂温泉」が圧倒的な集客力。他のスポットはそれぞれ 1/6 あるかどうかの集客力である。
- スポットの分散 = 他のスポットの魅力づくりは急務である。

公表：財団法人岐阜県産業経済振興センターホームページに掲載 (2011 年 3 月 31 日)